

教育情報の公表の促進

「教育力の向上の観点から公表が求められる情報(例)」について

＜大学の事例＞

1.	「学部, 学科又は課程, 研究科, 専攻ごとの教育研究上の目的」の例	1
2-①.	「知識・技能の体系」の例	2
2-②.	「教育課程との関係性」の例	4
2-③.	「教育課程編成に関する考え方」の例	6
3.	「学修の成果にかかる評価及び卒業の認定」の例	7
【参考①】	海外における教育プログラムの例	8
【参考②】	体系的な科目履修に関する取組	9
【参考③】	「学修の成果」に係る取組	10

1. 「学部、学科又は課程、研究科、専攻ごとの教育研究上の目的」の例

○A公立大学(国際環境工学部エネルギー循環化学科)の例

【国際環境工学部の教育目標】

国際環境工学部、大学院国際環境工学研究科は、環境に配慮した持続可能で豊かな産業都市を目指すべく、地域の期待を集めて開設されました。

本学では、これに応えるべく、優れた人材の育成と世界水準の技術開発を推進し、地域産業の活性化や市民生活の向上に貢献することを目指します。

【エネルギー循環化学科の目的】

物質変換を含む物質の流れを理解し、その過程を制御して物質の生産や資源循環・環境改善技術を専門とする人材の養成

○B私立大学(工学部機械工学科)の例

<学則上に規定される学部・学科の目的>

(学部・学科の目的)

第2条の2 第1条の目的にかんがみ、本学の教育目標を「自ら考え行動する技術者」の育成に定め、設置する学部及び学科にあっては、次項から第5項までに定めるところに従い、社会において確かな技術者としての高い倫理観を備えた人材の育成に努めるものとする。

2 工学部は、我が国の産業を支えてきたものづくりを担う人材の育成を目指す。

(1) 機械工学科は、ものづくりの基盤ともいえる機械関連分野において活躍できる人材の育成を目指す。

<Curriculum Guidebookに規定される教育目標等>

【工学部の教育目標】

我が国の産業を支えてきた「モノづくり」を規格大量生産方式から地球環境と調和した高付加価値生産方式に転換できる高い倫理観を備えた人材の育成を目指す。

【機械工学科の学習・教育目標】

工学技術者としての活動から得た工学的な諸問題に対して、科学・工学・技術者倫理に基づいた観点から解決案を導出するとともに、これを具体的な図面や技術文書を含む成果物として作り出すことができる機械技術者を育成する。

2-①. 「知識・技能の体系」の例

○C国立大学(法学科・法学プログラム)の例

C国立大学では、「学位」の質を保証し、学生が確かな学習成果を得るために「主専攻プログラム」を設定している。プログラムごとに到達目標として、必要な知識・理解、能力、態度等を明示している。

○到達目標

(1)知識・理解 次の3つの知識・理解。

- a)法体系全体の基本構成を原理的・構造論的に説明できる。
- b)特定分野の個別の法律の理念および運用のあり方を説明できる。
- c)初めて目にする法的紛争であっても、それが裁判所等によってどのように解決されるかを判断できる。

(2)当該分野固有の能力 次の4つの能力のうち、少なくとも1つ。

- a)司法書士や行政書士等の法律専門職の国家資格を取得でき、また、法科大学院の法学既習者コース入学試験に合格できるレベルにあると判断される能力。
- b)国家公務員又は地方公務員の法律職採用試験に合格でき、また、弁護士等事務所職員として勤務し、裁判所職員として勤務できるレベルにあると判断される能力。
- c)法的素養を持ったジェネラリストとして企業に勤務できると判断されるレベルの能力。
- d)法的視角から政治的現象を分析できる能力。

(3)汎用的能力 次の5つの能力のうち、aを含み少なくとも3つ。

- a)情報・メディアリテラシー、バランス感覚、国際感覚、問題分析能力、創造的思考力、言語運用能力。
- b)文章ないし言葉で自分の考えを的確に表現でき、交渉や折衝ができる能力。
- c)外国語を用いて交渉を行う能力。
- d)地域の特性を理解し、活用できる能力。
- e)価値の多元性を理解できる能力。

○プログラムを通して獲得が期待される態度・姿勢

次の2つの態度・姿勢。

- A)高い人権意識を持つ。
- B)個人の尊厳を尊ぶ。

○プログラム履修にあたって望まれること

法化社会という新しい社会状況を迎えるにあたり、リーガル・マインドとともにリーガル・リテラシーを身に付け、問題発見、課題処理、結果の評価といった局面において、国際化、情報化、地域化(地方分権化)などの社会変動に対応できる総合能力を持つための潜在能力があること。すなわち、ネイティブ教員および日本人教員による外国語による授業を理解する外国語能力、情報技術に関する基本的知識、および、法律の専門書を読みこなし、法的文書を作成するための前提となる基本的国語力。

2-①. 「知識・技能の体系」の例

○B私立大学(工学部機械工学科)の例

B私立大学では、各学習課程において、科目間の連携をフローで表し、科目群毎に学生が身に付けることができる能力として「科目群の学習・教育目標」を明示している。

○修学計画能力: 機械工学科において何を学ぶか、機械工学とは何かの概念を得る。また、機械工学科教育プログラムの学習・教育目標を把握し、自らの修学プランを立案することができる。

○設計(基礎)能力: 設計の基本原理(力の伝達、役割分担、自己充足、安定性と不安定性、実体設計の考慮点)と各種機械要素の機能と原理を理解し、これらの知識を機械および機械システムの設計に効果的に応用することができる(詳細設計を行うことができる)。

○製造・加工能力: 切削加工、塑性加工、特殊加工、機械材料、熱処理など、製造・加工に関する基礎的な知識を学び、部品図面に記述された技術的要求仕様を満たしながら、最も経済的に製造できる加工法や材料を選択することができる。

○コンピュータ援用能力: 近代的なエンジニアリング・ソフトウェアの理論と使用法を理解し、設計から製造に至る様々な過程で現実的な複雑さを持つ工学的諸問題を、コンピュータを援用して迅速に解決することができる。

○力学应用能力: 機械の強度設計や性能設計に必要な力学各分野の基礎知識(工業力学、材料力学、振動工学、熱力学、流体力学など)に精通することにより、これらの知識を、安全で効率の高い機械や機械システムの概念設計や基本設計(性能設計も含む)に応用することができる。

○システム化能力: 機械の自動化・システム化に必要な計測・制御に関連する基礎を修得する。また、機械関連分野で使用されている計測・制御装置の原理を理解し、機械の自動化・システム化に効果的に応用することができる。

○専門应用能力: これまでに学んできた実技教育科目、専門基礎科目の知識を統合・発展させ、現実的な複雑さを持つ工学問題の解決に応用する。機械工学の専門分野、ここでは「ビークルシステム」「創製プロセス」「エネルギー&メカニクス」の3分野のうち、1分野(コア)を選択し、そのコアを一つの題材として専門知識の発展と総合化を計り、応用することができる。

○プロジェクトデザイン能力: 工学的諸問題に対して、プロジェクトデザイン過程に基づき解決案を創出し成果を得ることができる。更に、理論的なアイデアや技術的なアイデアを具体的な図面や技術書面、レポート等で明確に表現することができ、そのアイデアの有効性を実証するために、試作や実験を計画・実行・分析し、その機能や性能を評価し改善することができる。

○進路計画能力: 機械工学に関する産業界の動向、求められる技術者像、就職環境などを把握して、将来の進路を展望し、自らの進むべき方向を決定することができる。

2-②. 「教育課程との関係性」の例

○B私立大学(工学部機械工学科)の例

B私立大学の教育は、「修学基礎教育課程」、「英語教育課程」、「数理工基礎教育課程」、「基礎実技教育課程」及び「専門教育課程」で構成されており、それぞれの課程は以下のような教育目標のもと実施されている。

○修学基礎教育課程

修学基礎教育課程では、B私立大学で学んでいく上で求められる能動的な学習・生活スタイルを身につけます。さらに、技術者としての倫理観や国際的感覚をもった日本人としての誇り、社会人としての基本的なコミュニケーション能力(正しく読む、書く、聞く、話す、考える、行動するなど)を修得し、技術者としての使命感、歴史観、倫理観、価値観を高めます。

【修学基礎教育課程の必修科目と配当年次】

- <1年次>「修学基礎Ⅰ～Ⅳ」、「技術者入門Ⅰ～Ⅲ」、「人間と自然Ⅰ」、「スポーツ入門」、「体力づくり基礎」、「体力づくり演習」
- <2年次>「コアガイド」、「日本学(日本と日本人)A,B」、「人間と自然Ⅱ」
- <3年次>「人間と自然Ⅲ」

○専門教育課程(機械工学科)

工学技術者としての活動から得た工学的な諸問題に対して、科学・工学・技術者倫理に基づいた観点から解決案を導出するとともに、これを具体的な図面や技術文書を含む成果物として作り出すことができる機械技術者を育成する。

【専門教育課程(機械工学科)の必修科目と配当年次】

- <1年次>「機械系入門」、「機械の原理」、「機械系CAD」、「機械系製図」、「工業力学」、「プロジェクトデザインⅠ」(再掲)
- <2年次>「機械要素設計」、「機械材料」、「機械工作・演習」、「材料力学」、「機械力学」、「流れ学」、「振動工学」、「熱力学」、「プロジェクトデザインⅡ」
- <3年次>「機械設計演習」、「機械加工学」、「専門実験・演習Ⅰ～Ⅲ」、「コアゼミ」、「プロジェクトデザインⅢ」

※他に「英語教育課程」、「数理工基礎教育課程」、「基礎実技教育課程」が存在するが、ここでは省略している。

2-②. 「教育課程との関係性」の例

【D私立大学(文学部日本語日本文学科)の教育目標とカリキュラムの特色】

【学科の教育目標】

① 日本の文化と歴史への理解を深める

本学科では、日本語コミュニケーションコース、日本文化・文学コース、京都学・観光文化コースの3つのコースを置いています。ことば・文学作品・有形無形の文化財・史跡・歴史資料などを通じて、われわれの現代生活の基盤であり、アイデンティティの土台となる日本の文化に幅広く触れることが教育目標の第1の柱です。

② 多角的な思考力と柔軟な感性を育てる

「主体的な人間」「自立した女性」になるためには、知識や情報の取得だけではなく、それを使いこなすための思考力や感性が必要です。専門教育の課程において、専門的な知識の習得とともに、論理的な思考力や柔軟な感性が磨かれねばなりません。本学科では、これらの応用力の習得を教育目標の第2の柱としています。

③ 豊かなコミュニケーション能力を身につける

「あたたかな人間」は本学園が求める人間像の1つですが、その上に成り立つ他者とのコミュニケーションや、それを通して形成される他者との共生は、現代社会において必須の課題となっています。本学科では、専門教育を通して、豊かなコミュニケーション能力を身に付け、あたたかな人間関係を作り出せる人間を育てることを、教育目標の第3の柱に掲げます。

【学科のカリキュラムの特色と教育目標との関連性】

① アットホームな学び空間・少人数制による丁寧な指導

本学科の専門教育のカリキュラムでは、1・2年次生に向けて「基礎セミナー」を、3・4年次生に向けて各専門分野の「専門セミナー」を置いて専門教育科目の要としています。少人数の各セミナーにおいて、それぞれの学生の個性・目的・実力に応じたきめ細やかな指導をすることで、上記の教育目標を達成していく態勢を整えています。

また、セミナーのすべてを専任教員が担当することで、個々の学生と専任教員との日常的で豊かなコミュニケーションを作り出すことが可能となります。セミナー以外のほとんどの科目も少人数の科目であり、学生自身が調査考察し、それをまとめて授業で発表する演習形式の科目も数多く用意しています。それぞれの学生の個性的な関心を重視しつつ、調査方法・考察方法・発表方法を個別指導することで、学生の思考力や感性を錬磨し、自説を発表するコミュニケーション能力を高めることを目指しています。

② 体験型の学習の重視・触れて学ぶ機会と資料の豊富さ

専門教育課程の多くの科目において、一方通行的な授業に終始しないように、実地見学や実演鑑賞を導入しています。土曜日の午前には社寺や史跡について教室で学び、午後の半日を使ってそこを実地に見学する「京都探訪」をはじめとして、古い時代の写本・版本・絵巻、明治・大正時代の新聞・雑誌・初版本、各時代の歴史資料、浄瑠璃・歌舞伎や茶道・華道の見学や実体験などを取り入れ、それらに直接触れることで、文化との接触の幅を広くすることに努めています。

ことばの運用に関わる科目においても体験学習を重視しています。「話し方講座」「書き方講座」などの科目は、日本語の運用能力とともにコミュニケーション能力の向上を目標としています。

また、「王朝衣装着付け見学会」「伝統芸能鑑賞会」「一泊研修」など、授業の内外において、豊富な体験の機会を作り、教員と学生とが協力してイベントを運営することを通じて、上記の教育目標の実現を目指しています。

2-③. 「教育課程編成に関する考え方」の例

○E私立大学(人間学部心理カウンセリング学科)の例

【人間学部】

全教育課程を「基礎教育」と「専門教育」に大きく二つに分け、必要な授業科目を系統的に1～4年次にわたって学年別に編成している。また、全教育課程をセメスター制で編成し、年間を「春学期」と「秋学期」に分け、学期ごとの完結型の授業科目を開設している。教育課程の特色は以下の通りである。

- ① 基礎教育科目は「キャリア形成科目」、「教養科目」、「外国語」及び「スポーツ・健康科目」の区分から構成される。「キャリア形成科目」には「キャリアデザイン」、「表現演習」及び「情報活用演習」の下位区分を設ける。「教養科目」には、「人間」、「文化」、「歴史と社会」及び「科学と技術」の下位区分を設ける。「外国語」は必修科目とし、他に中国語、韓国語、インドネシア語、フランス語、ドイツ語を開設する。また「スポーツ・健康科目」には、スポーツと健康に関する実技と講義・演習を配置する。
- ② 基礎教育科目は1～2年次にわたって履修し、修得する科目数は1年次がやや多いものの、2年次にもかなりの科目を履修し、③で述べる専門教育科目と並行するような科目配置を行う。
- ③ 専門教育科目には、個別分野の知識や種々の技術の修得のための講義科目、演習課目及び実習科目、さらには各種資格取得に必要な科目を、主として3～4年次に配置する。
- ④ 1～2年次には、クラスを構成し、クラス担任を中心とした履修上及び学生生活上の個別指導を行う。また、3年次には、学科の各教員のもとで専門セミナーを行い、問題意識を育み、個別課題の解決方法を学び、さらに4年次には、特別セミナー及び卒業研究によって、発展的・展開的な学習成果が生まれることを目指す。

【心理カウンセリング学科】

- ① 心理研究コース、カウンセリング研究コースの2コースがある。前者は、心理学全般についてバランスよく学び、高度な教養としての心理学を身につけたい学生のためのコースである。進路としては、一般企業を中心に、公務員や心理学専攻の大学院への進学が考えられる。後者は、学校(スクール)、医療、福祉、産業などのカウンセリングを重点的に学びたい学生のコースである。進路としては、一般企業、公務員や心理学専攻の大学院への進学が考えられる。ただし、これらのコースの別はあくまでも学習の目安であり、コースの選び方によって進路が制限されることはない。
心理カウンセリング学科の名称のとおり心理学を基礎としたカウンセリングを学ぶために、実験心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学など幅広く心理学全般をカバーしたカリキュラム構成である。学部教育では特にカウンセリングに偏った学習に陥ることなく、基礎としての心理学をきちんと学ぶことが必要であるとの認識に立っている。
- ② カウンセリングの学習は理論学習だけでなく、実習を中心とした体験学習が不可欠である。特講などの名称の科目でも講義だけでなく、実習、演習を取り入れた授業が行っている。また、さらに発展的な学習を希望する者は隣地研修として学外の専門機関での実習が可能なカリキュラム編成となっている。
- ③ 専門科目を担当する専任教員のほとんどがカウンセリングの実践家であり、臨床心理士の有資格者が13名いるほか、カウンセリング関連学会や各地の研修会での指導などで活躍している者が多数を占めている。

3. 「学修の成果にかかる評価及び卒業の認定」の例

○ A公立大学(国際環境工学部)の例

【授業科目における成績評価の基準】

「有機化学 I」の成績評価方法(シラバスより抜粋)

○出席約20%, ○中間試験約30%, ○レポート約10%, ○期末試験約40%

【学修の成果にかかる評価の基準】

試験成績の評点は、秀、優、良、可及び不可とし、秀、優、良、可を合格、不可を不合格とする。不合格は再試験(F)と再履修(G)の2段階とする。

成績表示		単位付与	備考	GP
成績証明書	修学簿			
秀	S	合格	科目の内容を完全に理解している。	4.0
優	A	合格	科目の内容を十分に理解している。	3.0
良	B	合格	科目の内容を概ね理解している。	2.0
可	C	合格	科目の内容の理解度は浅いが要点は理解している。	1.0
不可	F	不合格	再履修によらず、再試験で単位修得が可能。	0.0
	G	不合格	単位修得のためには再履修を要す。	

【卒業の認定の基準】

国際環境工学部規程第23条の定めるところにより、下記の条件を満たした学生に対して、卒業資格を認定し学士(工学)の学位を与える。

- 4年以上在学し、別表第1の定めに従って、次に定める単位を含め130単位以上を修得しなければならない。
- 累積GPAが、1.5以上。

基盤教育科目	別表第1
・人間力	6単位
・人文・社会	10単位
・環境	10単位
・外国語科目	6単位
・工学基礎科目	25単位
専門教育科目	
・専門科目	65単位
・卒業研究(卒業設計を含む)	8単位

【参考①】海外における教育プログラムの例

英国サセックス大学の「経済学(B.A.)」プログラムの例

○教育プログラムの目的(経済学(B.A.)の例)

1. 経済学のディシプリンにおける訓練を提供すること。学生に経済学に対して関心を持たせ、分析的・批判的な観点から経済・社会問題を検討することを促すこと
2. 柔軟なカリキュラムを提供し、経済学以外のアプローチや方法論を探索することを可能とし、様々な見方に対して開かれた心と柔軟性を身に付けさせること
3. 支援的な学習環境を提供すること
4. 一般的なスキルを提供し、分析的に思考をし、明瞭に表現をし、独立して仕事をやりぬき、締め切りを守り、イニシアティブを発揮することを可能とすること
5. 経済学固有のスキルを提供し、経済学理論と経済学データを分析し評価すること、一貫した論理的な議論を構築すること、経済学における研究を独立して行うことを可能とすること
6. 教育コースのレビューと評価のプロセスに参加させること

○教育プログラムの学習アウトカム

A. 知識と理解

A1. 経済学のコアの原則についての知識を身に付けること(コアの原則はQAAの経済学についてのsubject benchmarkに規定されているもの) など

B. 知的スキル

B1. 経済問題について本質的な特徴に焦点を当てるための抽象化をすることができ、政策効果について評価するための枠組みを提供することができること など

C. 実践スキル

C1. 必要な経済情報やデータをどこで探せばよいかに関する知識を身に付けること など

○経済学カリキュラムの概要

学年	学期	必修科目
1	秋	現在の経済問題
		経済/財政学のための数学入門
		経済学入門
	春夏	マクロ経済学1
		ミクロ経済学1
		1945年以降の世界経済
2	秋	マクロ経済学2
		ミクロ経済学2
		経済財政統計
	春夏	上級マクロ経済学
		上級ミクロ経済学
		応用経済学のトピック
3	秋	計量経済学
		グローバル市場の理解
	春夏	応用経済論文

その他選択科目として7科目を履修することが必要

【参考②】体系的な科目履修に関する取組

○F私立大学の例

【授業科目の種類と履修のレベルの設定】

本学には基盤教育院が提供する科目と学群が提供する科目があります。科目によっては、先修条件、履修年次、レベルが定められているものがあります。それぞれの卒業要件に従って計画的に学習することが肝要です。

先修条件

科目によっては先修条件が付いているものがあります。先修条件とは、「ある科目を履修するためには別の科目の単位を修得済みであることが条件となる」ということです。授業科目一覧表を確認し、充分注意してください。

履修年次

科目には履修することのできる年次が定められています。履修年次が「2」と示されている授業科目は2年次以上であれば履修することができます。

レベル

科目にはその内容に応じて、レベルが定められています。それぞれ100, 200, 300, 400で設定されており、100から400へと段階的にレベルが高くなります。レベルに沿って学習を進めることにより、段階的かつ系統的な学習ができます。

【GPA制度】

本学では、各科目の成績の平均値(Grade Point Average=以下「GPA」とする)を用いて、アドバイザーが履修指導を行っています。このGPA制度は、学習を効果的に進めてその質を高めるため、導入されました。GPAは学生の成績を数値化し、客観的にモニターするためのツールです。GPAにより、学生は学習効果を自分自身で把握することができるため、個人の能力や意欲に合わせて主体的かつ充実した履修を行い、学習効果をあげることができます。GPA制度のもとでは、学生は一度登録した科目は責任を持って確実に履修することが求められます。GPAは卒業判定にも用いられます。学生は各自のGPAを常に認識し、学習計画をたてる必要があります。

GPAによる指導等(同「履修ガイド」より抜粋)

- ① 1の学期のGPAが2.0未満となった学生に対しては、本人を呼び出し、アドバイザーによる注意と指導を行います。
- ② GPA2.0未満が2学期連続、または通算で3学期になった学生に対しては、本人および保証人(保護者等)を呼び出し、アドバイザーによる注意と指導を行います。
- ③ GPA2.0未満が3学期連続、または通算で4学期となった学生に対しては、教授会の議を経て退学を勧告します。
- ④ 入学時から卒業時までの通算GPAが3.5以上の学生は、卒業時に、成績優秀者として表彰します。

卒業要件(同「履修ガイド」より抜粋)

卒業するには、本学において定められた期間の在学、定められた授業科目を含む124単位以上の修得のほか、入学時からの通算GPAが1.5以上であることを要します。

【参考③】「学修の成果」に関する取組

OG私立大学の例

G私立大学では、授業の成績評価の分布についてホームページ上で公表。

教育の質の保証の観点から、成績評価の透明性や信頼性を高める取組として行い、学生の学習意欲の向上を図る。

年度	科目コード	開講期間	開講科目名	クラス	登録者数	成績評価(%)						評点 平均値
						A	B	C	D	F	他	
09	10368000	春	英米文学特論H		27	22.2	29.6	22.2	0	25.9	0	2.2
09	10392000	春	ギリシャ語入門I		13	38.5	7.7	0	7.7	46.2	0	1.8
09	10396001	春	ラテン語入門I	1	46	6.5	0	4.3	13	76.1	0	0.5
09	10702000	春	英語科教育法B		142	12.7	28.2	23.2	22.5	13.4	0	2
09	10710001	春	英語科教育法A1	1	91	14.3	19.8	38.5	17.6	9.9	0	2.1
09	10712001	春	Communicative English Skills AI	1	22	59.1	31.8	9.1	0	0	0	3.5

学生による授業評価の結果についても、授業科目の担当教員に結果を通知して授業改善に役立てるほか、集計結果についてはホームページでの公表を行っている。

図は、文学部の授業科目において、「シラバスに沿って授業が進められたか」という設問に対する集計であり、4(そう思う)～1(そう思わない)で回答させた結果。

なお、0は「回答できない」を示し、人数は授業科目の規模(受講者数)を表す。

